

adpack-PRO

CADからの創造。
ネット時代の建築家はadpack-PROを駆使する。

AutoCAD 2023シリーズ対応
Ver.26.0

アドパックプロ adpack-PRO 建築統合システム 1

建築意匠・仮設計画図・電気設備・空調衛生設備対応

AutoCADに対応した建築アプリケーション。

図形に知能を持たせる「オブジェクト指向」を躯体作図に取り入れ、設計変更にとまなう煩わしい編集作業等を強力に支援。

柱、壁、建具オブジェクトに加え、面積表もオブジェクト化。三斜と面積表が動的リンクします。

また異縮尺機能の強化により、一般図と詳細図も動的リンク。一般図 - 詳細図の一元管理が可能です。

また、AutoCAD 単体等の adpack-PRO 以外で作成した図面を編集する場合などは「オブジェクト切替」コマンドで建築オブジェクトを OFF にすることで、壁の編集や建具作図等の対応が可能となります。

adpack-PRO 建築統合システム1は、意匠設計機能と、空調衛生設備、電気設備、仮設計画図の機能を統合化し、さらに詳細図作成機能を強化しております。

定価:360,000円(税込 396,000円) 教育用価格:120,000円(税込 132,000円) ネットワーク版もご用意しております。

adpack-PRO 建築統合システム 1

adpack-PRO 建築統合システム 1 は、オートデスク社のAutoCAD 2023対応製品として機能を充実するとともに、AutoCAD Plus 2023 (Architectureツールセットのみ)にも対応し、3次元との連携も可能です。異縮尺作図は、AutoCADの最も苦手とするところですが、adpack-PROではこの問題を一気に解決。さらにこの機能を利用することにより、一般図と詳細図の動的リンクを可能にしました。一般図を修正すると同時に詳細図も変更されます。また面積表の機能も強化し、面積表と図形との動的リンクも実現しました。もちろんマルチドキュメントインターフェイス (MDI・MDE) 対応なので、複数開いた図面に対してadpackのコマンドを実行し、作図することができます

■異縮尺作図機能

AutoCADでは、ペーパー空間、モデル空間を利用して異縮尺図面を作成することができますが、文字の高さや寸法の高さ調整機能がないため、実際の異縮尺図面を作図することは困難です。結局このような操作が、詳細図の作成を困難にしています。そこでadpackでは建築的な操作で簡単に異縮尺図面を作成できるよう工夫がなされています。

■一般図と詳細図のダイナミックリンク機能

異縮尺機能で、異縮尺の領域を作成するだけでなく、実際の図面を切り出し、縮尺を変えて表示する機能が新たに加わりました。またペーパー空間毎の表示レイヤーがコントロールできるのでモデル空間上で一般図から詳細図にいたるまでの作図を行い、一般図用ペーパー空間と詳細図用ペーパー空間のレイヤー表示を切り分ければ、一般図と詳細図のデータを一元管理することが可能になりました。

■異縮尺図面の分解

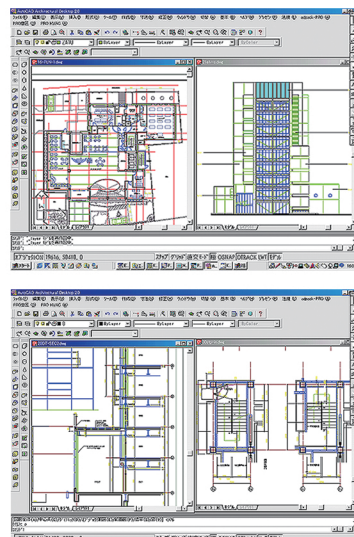
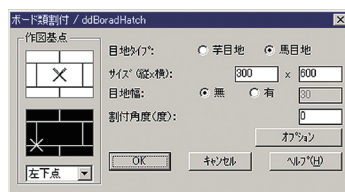
異縮尺図面はペーパー空間を使用している為、他社CADへDXF・DWGファイルでデータを配布すると、元の図面通りの表現にすることは不可能です。adpackでは異縮尺図面の分解コマンドが用意されており、このコマンドで生成されたDWGデータは、ペーパー空間を使用しないで、元の異縮尺図面と同じ表現に分解することが可能になり、他社CADとのデータ互換を可能にしました。

■面積表のダイナミックリンク機能

面積表で三斜や床面積の区切図形を変形すると、求積された表の数値が図形の変更とともにリアルタイムに変更します。

■意匠設計機能

- 外部参照のクリップ状態でのDXF書き出し
- ポリライン計測コマンドに坪換算機能追加
- オブジェクト間の最短距離計測
- オブジェクト選択による「レイヤー」「文字」「寸法」「色」「線種」のカレント設定
- ボード類の割付機能強化

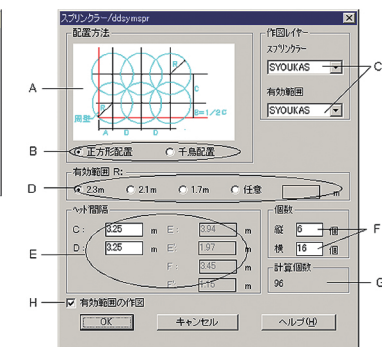


■空調衛生設備の対応可能図面

空調衛生配管図、空調ダクト図、系統図に対応。

■空調衛生設備作図機能

配管シンボル配置では、各種衛生シンボルを任意場所・角度に配置し自動クリーンアップ。各種配管種別に合わせた作図と、エルボ、分岐などの継手等の配管・角度指示による配置。実寸法入力による納まり検討を可能にした铸铁管作図。シンボル配置とダブルライン表現の空調ダクト作図。



■ソフトウェア (各日本語版)

AutoCAD 2023
AutoCAD Plus 2023 ※Architecture ツールセットのみ
※Architecture ツールセットは「AutoCAD Architecture 2023 - 日本語 (Japanese)」としての AutoCAD 上での使用に限り動作保証します。

■オペレーティングシステム (各日本語版)

Windows 11 64ビット版
Windows 10 64ビット版
※その他、詳しい内容は、AutoCAD 2023、AutoCAD Plus 2023 2D機能使用時のスペックに準じます。

■プロセッサ：各 AutoCAD 2023シリーズ製品の動作環境

- メモリ：各 AutoCAD 2023シリーズ製品の動作環境
- 画面解像度：各 AutoCAD 2023シリーズ製品の動作環境
- ディスク空き容量：約 400 MB (AutoCADが必要とする容量は除く。)
- ポインティング デバイス：Windowsに対応したマウス
- CD-ROMドライブ必須 (インストールに使用)
- その他
 - スタンドアロン版のみ
ハードウェアロックが接続できるUSBポート
 - ネットワーク版のみ
TCP/IPプロトコルによるネットワーク環境